

講義2

レポート表現のテクニック2

論述・作文A

第14回

この講義で学ぶこと

- 同じ言葉の繰り返しを避ける方法
 - 同じ文章の中で、何度も同じ言葉が繰り返されると、読み手に「しつこい」印象を与えることがある。
 - 繰り返しを避ける指示表現を学ぼう。

繰り返しのマイナス効果(1)

- 一般的に繰り返しは避けたほうが良い。
 - 文のレベルでも句のレベルでも単語のレベルでも、
繰り返しはしつこい印象を与える。

マイナス効果(2)

- 連体格助詞「の」を連続して使うと複数の解釈が生じて、わかりにくい。
- 例:「日本の海産物の需要」は2通りに解釈できる。
 - 解釈1: 日本国内における海産物の需要
 - 解釈2: (海外における) 日本産海産物の需要
- 「～における」のような言い方を使い、あいまいな解釈が生じないように言い換えよう。

マイナス効果(3)

- 長い文では同じことを繰り返しやすい、結果として文がねじれる。

貴社にお願いする理由は、過去の実績を検討して、もっとも信頼できると判断し、よりよい取引関係を構築したいと思い、貴社にお願いする所存でございます。

文頭に対応する述語がない。
「理由は～である/～のためだ」

指示語

- 指示語を使うことで繰り返しを避けられる。
- 「コソア」の意味
 - **こ**{これ、この}
 - 話し手に近いもの。
 - **そ**{それ、その}
 - 聞き手（相手）に近いもの。
 - **あ**{あれ、あの}
 - 話し手からも聞き手（相手）からも遠いもの。

「そ」の文脈指示機能

- 「そ」には、複数の文が続く文脈で、前に出てきたものを指す機能があるので、語句の繰り返しを避けることができる。
- 例：

太平洋戦争では、開戦後半年を過ぎた頃から戦況が悪化していた。しかしながら、そのことは国民には報道されなかった。
- ただし、連続して使用すると何を指しているかがわかりにくくなるので注意。

NG: 「そ」の多用

太平洋戦争では、開戦後半年を過ぎた頃から戦況が悪化していた。しかしながら、そのことは国民には報道されなかった。そのかわりに大本営は虚偽の発表をおこない続けた。そのような経緯から、政府関係者らに有利となる情報操作・虚偽の報道を公式におこなうことを「大本営発表」とたとえるようになった。

- 1番目、2番目、3番目の「そ」が指し示す内容が異なることに気づくだろうか。

前者・後者

- 2つの事柄が併記されている場合に用いる。
- 最初に出てきたほうを「前者」、後に出てきたほうを「後者」とよぶ。
 - どちらか一方のみを使うこともある。
 - 「者」とあるが、人以外のものを指すことも可能。

大阪大学医学部を卒業した手塚治虫は、医療に関連する作品も数多く発表している。なかでも秀逸なのが『ブラック・ジャック』と『きりひと讃歌』だ。前者は、主人公であるモグリの天才外科医・ブラックジャックがさまざまな手術をおこなう一話完結型の作品である。後者は、高知県で発生した奇病の原因解明を通じて、医学界における派閥闘争や医療倫理について読者に問いかける長編作品である。両作品とも、人命を預かる医者之苦悩がみごとに描かれている。

前述の～、上記の～

- 指示語ではないが、表現の繰り返しのしつこさを和らげる要素として使える。
- ただし、誤用が多いので注意。

×：上記で述べたように、

◎：すでに述べたように、

－ ◎：上記のように、／ ◎：上記のとおり、

－ ◎：前述のように、／ ◎：前述のとおり、

略語を使うときの注意

- 略語はくだけた印象を与える場合があるのでフォーマルな文書では略さない。

－×：バイト （◎ アルバイト）

- ただし、正式名称が長い場合は略すことも可能。その場合は、最初に使うときに説明する。

－日本高等学校野球連盟（以下、高野連）は、・・・

本日のMoodle課題（1つ）

- 講義1と2のチェックテストに解答
 - － 解答期限は次回講義日前日の18時まで。

